

学校教育目標

「三つの花」を咲かせる西部っ子



にこにこ花 楽しくあいさつができる子

ほかほか花 相手の心を思いやることができる子

きらりん花 きらきらと自分らしく輝く子

あしたも  
行きたくなる学校



## 一人一台端末がある学校生活

国が進めていたGIGAスクール構想が、新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、前倒しで進められました。それにより、本校の児童にも「一人一台端末」が配布され、授業での活用が始まっています。基本はMicrosoftのTeamsで、ロイロノートと併用しています。各学年では、どのような使い方をしているのか、簡単に紹介します。

- 《1年生》 自分の名前や絵をカードにタッチペンで書き、ロイロノートで先生に「提出」する練習をしました。
- 《2年生》 国語科「お話づくり」。子供たちがローマ字入力で自分の考えたお話を入力。中にはカタカタと素早く入力できるツワモノもいます。
- 《3年生》 社会科「スーパーマーケットではたらく人たち」。それぞれ調べてきたことをカードに記入して、それを共有。互いに見合い、友達の発見から新たな気付きを得ました。
- 《4年生》 毎日の連絡帳は担任が朝のうちに子供たちのタブレットに送信。子供たちは、毎朝タブレットを開いて確認し、時間を見付けて連絡帳に写します。
- 《4年生》 体育の「キャッチバレーボール」。作戦タイムではタブレットで作成した分析表を基に、どこをどのように守るのか話し合いました。
- 《5年生》 授業での資料の配布。これまで印刷して配っていたものが、資料のデータを「送る」だけで子供たちの端末に表示されます。
- 《5年生》 外国語科「道案内」。一人一人が「ミステリークイズ」を考え、それを撮影した動画をクラス全員で共有し、友達の問題に挑戦しながら英語の表現に慣れ親しみました。
- 《6年生》 総合「自分と社会の関わりを考えよう ～SDGsの取組から～」。一人一人が課題として捉えた目標について取り組みたいことをプログラミング(Scratch)で、ゲーム、プレゼン等を作成し、伝えました。

まずは、起動、ログイン、文字入力、写真や動画の撮影等、タブレットに慣れることから始まります。生まれた時からスマートフォン等の情報機器が身の回りにある子供たちにとって、タブレットはそれほど抵抗なく使用できています。

教員の方は、アプリケーションや他の機器(マイクロビット等)の準備に始まり、どの場面でもどのように使えば効果があるのか教材研究するなど、試行錯誤の連続です。導入した当初は誰かが汗をかかないと始まらないことなので、西部小の教員一同、研修したり教え合ったりしながらがんばっています。

この後、一人一人に応じた内容を学習できるような環境が充実すれば、個に応じた指導も可能になってくるでしょう。



「一人一台端末」元年となった令和3年も間もなく終わろうとしています。基本、タブレット端末は文房具の一つです。「タブレットを使う」ことが目的ではなく、「タブレットで学習する」日常を目指して、進めていきます。引き続き、ご理解ご協力よろしくお願いいたします。

校長 上田 良美



1年 チューリップ球根植え  
西積地区社会福祉協議会のみなさんとの交流



2年 おもちゃランド  
上小泉保育園・西加積学園 園児との交流



4年 握手のつどい  
西加積地区悠々クラブのみなさんとの交流



**いろいろな世代の方々と交流をしたり、その道のプロから技能を体験し、学んだりしました。**

<p>4年 市音楽活性化推進事業 ハープ演奏者 福島 青衣子 さん</p>	<p>5年・6年 書道教室 元滑川中学校校長 稲垣 宗之 さん</p>	<p>6年 音楽教室開催事業 三味線楽家 濱谷 拓也 さん</p>
<p>ハープの美しい音色でクラシックやジブリのメロディが奏でられました。校歌をハープで演奏していただき、みんなで合唱しました。</p>	<p>文字が美しく整うように、筆の使い方(始筆・送筆・終筆)を先生から丁寧に教わりました。静かに集中して練習に取り組んでいました。</p>	<p>和楽器に親しむために毎年開催されています。生まれて初めて三味線に触れ、緊張しながらも、「新川古代神」の演奏に挑戦しました。</p>

